

第4回学校再編計画策定委員会会議録

日時：令和元年5月20日（月） 10時30分から11時30分まで
（メールによる意見聴取は、午前9時42分から午後3時まで）

場所：初倉小学校 ほか

出席：初倉小学校・・・初倉小学校長、初倉南小学校長、湯日小学校長、教育部長
庁舎内・・・市長戦略部長、行政経営部長、学校教育課長
メール・・・島田第一小学校長、伊太小学校長、相賀小学校校長、神座小学校
長、伊久美小学校、島田第一中学校長、北中学校長

1 初倉地区（初倉小学校長、初倉南小学校長、湯日小学校長）

事務局 第3回委員会において再編計画（案）の修正が必要となった部分を訂正するとともに、同委員会で協議した内容を追記した。また、初倉南小学校と初倉小学校の再編案については、市長と教育委員の意見交換会において、初倉地区を小中一貫のモデル校として実施することや、施設面における配慮について認識が一致した。この中で、小中一貫教育のメリットを最大限に活かすためには、小学校と中学校の校舎を同一敷地内に設置するということにも話が広がったため、8月までに統合時期を決めてしまうことはせずに、保護者や地域の意見も踏まえて、さらなる調査・研究を続けていく認識に至った。ただし、ただ引き伸ばすのではなく、きちんと時期を決めて結論を出すことも大切なため、事務局としては結論の時期を令和3年3月に設定し、かつ北部地区の校長を除いたメンバーで協議を開始できるよう、新たな協議を提案することとした。

委員 令和10年より早まることも想定しているのか。

教育部長 令和10年は長寿命化工事を他校より前倒しで実施した場合の最短であったが、例えば小学校と中学校を「同一敷地内」や「同一校舎」で設置するとなれば、現校舎とは全く別のもので初倉地区の全児童生徒を受け入れられる作りの新校舎になる可能性があるため、令和6年完了予定の島田第一小学校改修・改築後速やかに取り掛かって、令和8年～9年という線も見えてくるだろう。もちろん、今後の児童生徒数の推移や、保護者や地域の意見、調査・研究結果にも左右されることなので、確実に早まるとは言い切れない。さらに、設置する敷地の確保も重大なことで、地域住民の大きな理解が必要である。

委員 初倉南小と初倉小については、時期尚早という意見が多く、8月までに決めることは困難だったので、理解を得やすくなっただろう。ただ、令和4年に3校同時統合の線を出していたので、その時点では関わりのなかった令和3年に6年生となる湯日小現4年生の保護者が納得できるかは心配なところである。

教育部長 北部地区についても同様で、統合に関わる児童生徒の保護者の不安をいかに解消できるかが大切になってくる。教育委員会としては、「通学の安全を確保するため距離に関する国の基準にとらわれることなくスクールバスを手配する」や「制服を責任もって手配する」など言い切りたい部分は多々あるが、お金のかかること

は市の財政部局の判断や市議会の承認といった絡みがあり、どうしても確実だとは言えないことが辛いところ。このため、市長部局に働きかけていくといった回答で皆さんに理解していただくしかない。一方で、統合に向けての学校間交流や修学旅行・校外活動の調整、同一教材の使用といった教育委員会サイドで決められることについては、統合に間に合うようカリキュラム等検討委員会で責任を持つよう伝えることができる。

委員 令和3年統合となれば、逆算して令和2年に学校間交流を行うため、そのカリキュラムを今年度中に決めなくてはならない。また、同時並行で閉校記念式典や記念誌の発行といった業務も進めなくてはならないため、できれば統合対象校に、専用の人員を配置してもらいたい。

教育部長 人員配置については、静岡県教育委員会の判断が必要なので、希望として持ち帰らせていただく。

委員 再編計画（案）については、湯日小と初倉小の先行統合、初倉南小と初倉小の統合については、初倉中との再編を視野に一体型小中一貫校の調査・研究を続けていくことで承知した。課題は多いため、市教育委員会にはカリキュラム等検討委員会などで全面的なバックアップを期待する。

2 庁舎内（市長戦略部長、行政経営部長、学校教育課長）

持ち回りの上、学校再編計画（案）について承認を得た。

3 北部地区（伊太小学校長、神座小学校長、相賀小学校長、伊久美小学校長、北中学校長、島田第一中学校長）

メールにより修正した学校再編計画（案）を提示し了承を得た。